

日 程：1985(昭60)年8月9日—8月14日

参加者：谷端伸彦、瀬戸明宏、辻川輝男

コース

甲府—広河原—北沢橋—両俣小屋

同小屋—両俣大滝—中白根沢の頭—北岳肩の小屋

同小屋—北岳—中白峰—間の岳—農鳥小屋

同小屋—西農鳥岳—農鳥岳—大門沢小屋—奈良田第発電所

9日(金)

21:00 大阪駅噴水前に集合

22:40 急行ちくま53号で塩尻(5:12)へ

10日(土)

5:47 塩尻で各駅停車に乗り替えて甲府(7:17)著。予定ではバスの乗り次ぎ乗り次ぎで11時すぎに北沢橋到着であるが、甲府駅バス停前で中年夫婦の連れの登山者に出会い、合計5名でタクシーで広河原へ向かう。料金はバスと同じの1人1800円。

8:45 広河原に到着する。これより先は村営バスしか入れないので9時発車のバスに乗り替え

9:23 野呂川出会いでバスを下車。ここから今年の登山が始まる。曇天で時折小雨がぱらつく空模様である。登山靴に履き替えるのが面倒なので3人ともスリッパで歩きはじめる。

10:20 林道を歩いて約1時間。林道のほぼ中間地点で15分の休憩をとる。雨が強まってきたため登山屈に履き替えるとともに雨具の用意をする。

11:30 林道終了。昼食をとる。

12:15 両俣山荘を目指して出発。

12:45 両俣山荘に到着。コース・タイム：4時間、実時間：2時間30分。

同山荘は野呂川の河川敷にあり、昭和57年8月1日の台風による増水で倒壊し、その後に建て直されたものである。倒壊当夜、同山荘には約40人の登山者が宿泊しており命からがら避難したとの事。その模様を記録し冊子にしている。(谷端氏購入：1000円)

この小屋の食事は南アルプスで最も良いとの評判であったが、生協のB定食の下クラスであった。これから的小屋での食事が思いやられる。

発電機はなく自然消灯であるが、ランプがあり6時すぎから1階で数人のおっさんが焼き肉を始めたため、我々の2階までおいしい匂いがプンプン。ラジオで野球を聞きながら寝入った。

11日(日)

4:30 起床、朝食。次第に夜が明け他の登山者は次々と出発していくが、毎度のことでおれは最後になってしまった。

6:00 両俣山荘(標高約1600メートル)を出発。今日は北岳肩の小屋(標高約3000メートル)まで一気に登る。標高差1400は少しきついと思うが・・・。左俣大滝まで約1時雨の沢歩きが続く。

7:15 左俣大滝に到着。途中北岳への登り口と間違えて15分のロスをする。先に出発した人たちの中にも間違えて登っていった足跡があった。無事に登り詰めればよいが・・・。

大滝には既に大阪工業大学のワンドーフォーゲル部の8名が休憩していた。大滝を背景に記念写真を撮る。この大滝が中白根沢ノ頭への取り付け点となっていて山の斜面を登るコースである。

7:30 大工大チームが先に出発したが、なにせ彼らは30キロに及ぶザックを背負っておりおれはすぐに追いつき追い越した。どんどん登り詰めるがなかなか樹林帯から抜け出せない。

1時間を経過しそろそろ休憩と思いつつもリーダーは黙々と登り続ける。

8:55 樹林帯を出る少し手前(標高約2640メートル)で休憩を10分。

9:25 中白根沢ノ頭(標高2841メートル)に出る。ここから尾根づたいに約1時間半。左斜面からは雨まじりの冷たい風が吹きつける。真夏というのに左手は

かじかむほどである。

- 10:30 北岳山頂（右）と肩の小屋（左）への分かれ道に出る。途中数分の小休止を2回とる。
- 10:40 肩の小屋に到着。コースタイム：4時間半、実時間：4時間
体力的にはまだまだ歩けるが雨風でその気がしない。予定通り本日はここに宿をとる。上半身は雨でぼとぼと、暖炉で乾かす。
- 13:00 湯を沸かしインスタントのみそ汁を作り両俣の弁当を食べる。晴れていれば眼前にそびえる富士山が見えるはずだが濃霧のため全くその姿を現わさない。
- 17:00 夕食。みそ汁にみょうがが入って、そして漬け物。
リーダーは「まずーっ！！」を連発。
- 18:00 寝支度をする。この小屋では2畳に3人が入る。
- 20:00 就寝

12日（月）

- 4:30 起床、朝食。今日も天気は昨日と同様もしくは更に悪い程度。朝食のメニューは卵とのりと漬け物それにまろい味噌汁。漬け物はからくて食べれるものでなく、瀬戸氏と辻川は卵を残す。谷端氏と辻川は缶詰めとお茶漬けで朝食とする。潮戸氏はお茶漬けすら喉が通らない模様。圧力鍋を使っていないらしくご飯は全く腰がない。
- 7:28 雨具を身につけて小屋を出発。
- 7:55 北岳山頂（標高3192.4メートル）。
濃霧で周囲は何も見えないが一応今回のメインであるので記念撮影。
- 8:15 山頂出発
- 9:00 北岳山荘に到着。雨が強まつたのでしばらく休憩。この山荘は公営で水洗トイレもある設備の整った施設である。しかし宿泊は相当に混雑が予想され今日はふとん1枚に3人の割り当てとなっている。とても寝られるものでない。
瀬戸氏と辻川は北岳登頂記念のテレホンカードを購入する。
- 9:50 同山荘を出発。緩やかな登りで中白峰（標高3055メートル）を越える。
- 11:15 間の岳（標高3189.3メートル）到着。ここで三峰岳・塩見岳万両（右）と農鳥岳方面（左）に分かれる。我々は農鳥岳方面へ進む。
- 12:15 農鳥小屋に到着。コース・タイム：4時間半、実時間：3時間40分。
晴れていれば最高の眺めで歩けたのであろうが、この雨の中での歩きは疲れるばかりである。今年は運が悪い。日が悪い。
寝床の割り当てはふとん1枚に2人。寝返りが窮屈であるが北岳山荘よりはましである。割り当ての場所で湯を沸かしチキンラーメンを作り昼食をとる。後から到着した6人（内女性1人）のグループが我々の前でカレーライスや焼き肉を始める。周囲の者はそれをうらやましそうに眺めながら夕食までの時間を過ごす。
- 1T:00 夕食。椎茸や竹のこなどの山菜料理であるが3人とも食べたのは1品だけ。
あとは缶詰めである。
- 18:00 全くの自然消灯。皆それぞれ毛布に包まってラジオを聞いて時間を過ごす。

13日（火）

- 3:00過ぎ 数人がガサガサと起き出し、窓から外をのぞいて晴天だと言い出したので皆が起きる。外に出てみるとそのとおり満天の星空である。
甲府の町の明かりも見える。あまりに寒いので湯を沸かしてコーヒー、スープを飲む。瀬戸氏が前夜のラジオ・ニュースで飛行機が墜落したと言った。
- 4:30 朝食。メニューに関してもう何も書かない。残念ながらご来光は雲に隠れていたが、夜明けとともに雲海から突き出るようそびえる富士山の雄姿がはっきりと見えてきた。何枚も富士山の写真を撮影した。
- 5:45 小屋を追い出されるように出発。
- 6:45 西農鳥岳（標高3050メートル）到着。途中見晴らしの良い頂で休憩を約15分。
- 7:22 農鳥岳（標高3029.5メートル）到着。雲間に現われる富士山をなんとかしてカメラに収める。
- 8:00 出発。

198508-txt.txt

8:25 大門沢下降点に到着。これより尾根から外れて山を下る。
途中で北アルプスでは少なかった高山植物が数多く咲いていたので写真に撮る。

9:53 水場に到着。途中休憩約10分。ここで歯を磨いたりして40分の休憩をとる。

10:35 水場を出発。沢に沿った山道を下る。

11:10 大門沢小屋に到着。昼食をとる。メニューは農鳥小屋で残した卵を入れた鳥肉入りのおじやと味噌汁。おじやは最高にうまかった。

12:40 同小屋を出発

13:45 大コモリ沢の水場に着く。15分の休憩。

14:00 出発。吊橋を3本渡って緩やかに下って行く。

14:45 最後の峠を登り切る。発電所まで1505メートルとの看板が目に写る。
ゴールは間近である。

15:00 瀬戸氏の要請で休憩を5分延長し峠を出発。

15:10 奈良田第1発電所に到着。コースタイム：7時間10分、実時間：5時間50分。
今回の登山はこれで終了した。
発電所には既に奈良田温泉のアルプス山荘からワゴン車が迎えに来ていた。

(以上)